

ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット

久保田 宏・伊藤真之（神戸大学大学院人間発達環境学研究所）・
田中成典（同工学研究科） 他

ひょうごサイエンス・クロスオーバーネットについて

地域社会において、科学を人々にとって より身近なものとするために様々な取り組みが行われている。「ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット」（略称：クロスネット）は、兵庫県においてこのような広い意味の「科学コミュニケーション」に取り組む機関や人々のネットワークとして、(独)科学技術振興機構「地域ネットワーク支援」を受けて2008年に発足した。兵庫県は、豊岡のコウノトリに象徴される環境と調和した地域・農業の在り方や六甲山の森林などの自然環境保全・再生の取組み・歴史や、播磨のSpring-8や神戸に建設が進む次世代スーパーコンピュータなど、豊かな自然と先端科学技術の集積の2つの側面で、恵まれた環境・資源を持っている。クロスネットの取組みは、こうした恵まれた環境・資源を活かしながら、地域の博物館・科学館などの社会教育機関、大学、研究機関、自治体、企業、市民グループ、個人など、多様な機関や人々が、交流・連携を促進し、地域の科学コミュニケーションの取組みが持続的な形で展開、発展してゆくことを目指している。

クロスネットは、神戸大学が提案・運営機関、兵庫県を連携自治体として、兵庫県立人と自然の博物館、大学コンソーシアムひょうご神戸、(財)ひょうご科学技術協会の他、県内のさまざまな機関、市民グループなどが参加している(2010年2月時点で約20機関)。ネットワークの展開・活動においては、「持続可能な発展」の視点を重視し、課題解決のための科学の視点に加えて、「文化としての科学」の地域コミュニティへの浸透を目指す。

クロスネットの取組み

クロスネットでは、これまでに、以下のような取組みを進めてきた。

- (1) 兵庫県各地のサイエンスカフェ開催支援（専門家をゲストに市民が科学について気軽に語り合う場）
- (2) 科学コミュニケーションに取り組む人々の集う「ひょうごサイエンスフォーラム」の開催
- (3) ホームページの開設と運営
- (4) 市民の科学に関わる調査・研究活動の成果を発表・蓄積するオンライン電子ジャーナルの創設準備
- (5) サイエンスツアーの試行



姫路市「野里の町屋大野邸」で開催されたブラックホールに関するサイエンスカフェはりま



尼崎ロボットテクニカルセンターにおける産業用ロボットに関するサイエンスカフェひょうご

これらのうち、特にサイエンスカフェの開催支援は重点的取組みとして、多くの成果をあげている。これまでに、豊岡、篠山、伊丹（サイエンスカフェ伊丹）、三田（サイエンスカフェ in さんだ）、西宮、尼崎、神戸（サイエンスカフェ神戸、サイエンスカフェ六甲山）、明石、姫路（サイエンスカフェはりま）、南あわじ（くましろふれあい広場）などにおける開催を支援してきた。特に、各地域の市民グループが主体的に運営・開催する体制づくりや、話題・ゲストの選定、広報などをお手伝いしている。各地のサイエンスカフェのテーマの例としては、「知ろう 語ろう スーパーコンピュータと科学」、「産業用ロボットの現状と近未来」、「魅力あふれる生き物『オオサンショウウオ』の素顔」、「里山の保全と生物多様性」、「姫路城周辺の植物を観察しよう!」、「カナダの大自然や先住民が作り出したすばらしい美」など多様な話題が取り上げられている。

2009年10月に開催された「ひょうごサイエンスフォーラム2009」では、兵庫県、人と自然の博物館、甲南大学等の他、各地でサイエンスカフェを開催する市民グループ、企業など、多様な立場の人々の参加を得て、活発な交流・情報交換が行われた。2010年2月には、震災・防災と地球科学をテーマに淡路島の野島断層、神戸の布引断層などを見学する第1回のサイエンスツアーが実施された。2月末には、丹波の草食恐竜化石発掘現場などを見学する第2回のサイエンスツアーを計画している。サイエンスツアーでは、都市部の人々と、兵庫県に広がる自然・科学の資源をつなぐことを目指している。

取組みの意義と今後に向けて

兵庫県は、科学技術の取組みの課題の一つとして「サイエンスコミュニティの醸成」（研究者と県民の双方向コミュニケーションが行われ、サイエンスが日常の生活に根ざした地域コミュニティ）を掲げている。ネットワークが発展し、クロスネットがこのようなコミュニティづくりに資することを目指してゆきたい。

参考

ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット ホームページ <http://www.hscn.jp/>